ふれあい通信

５月号

発行所
くまもと県民葬祭
住所
熊本市東京塚町19-47
電話番号
096-386-1059
発行責任者
専務取締役 岩崎寿子
フリーコール 0077-78-1059
ホームページ
くまもと県民葬祭 検索
www.0077-78-1059.com

悠々倶楽部第28回春のバスツアー開催

4月20日武雄高野寺お笑い説法と伊万里の旅

四月二十日金曜日、第二十八回目となる悠々倶楽部二〇一二春のバスツアーを八〇名のゲストをお迎えし催行いたしました。今回の旅先は佐賀県武雄と伊万里の旅、伊万里では大川内山で窯元の見学をし、その後割烹料理店での昼食、午後は武雄に移動し高野寺でお笑い説法を聞き、最後に武雄温泉物産館でおみやげ物のショッピングを楽しみ帰路に着くという行程。当日はお天気が心配されましたが、雨に降られることもなく楽しい一日を過ごすことができました。

今回は当初の定員四五名を大幅に上回る方がお申し込みされ、バスを一台増便して対応、昨年春のツアーに引き続き秋のツアー大型バス二台での運行となりました。

観光写真は上から託麻野寺の大型バス、高庭園のしやくなげ、ゴルフ場のスナップ、高野寺の集合写真、本堂で撮影した恒例の撮影会。皆様ご参加いただきまして、ありがとうございました。次回のお元気でお過ごしください。

天皇皇后両陛下の火葬・合葬について

陛下のご決断と次世代を生きる若者へのメッセージ

天皇皇后両陛下のご意向を受け、宮内庁は火葬と合葬について検討に入ったと報道されました。私は両陛下が、平成の次の世代を生きる人に過度な負担を掛けたくないという強い思いを感じました。

明治以降、天皇陛下が崩御されると陵を築き土葬するのが慣わしでした。しかし陵を築くには広大な敷地と莫大な費用を要し、そのことを懸念され指示をなさったとの事。同時に陛下はお葬式の簡素化も望まれているとの事です。

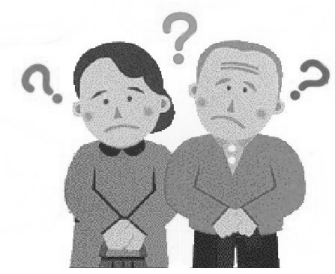
今回の遺言とも言える両陛下の決断は今の国を案じてのことだと思います。次世代を生きる若者へのメッセージの様に感じました。

政治家や官僚、私たち民間人も含め、国家として徹底した無駄の排除と倹約について、立ち止まって考える時期が来ている様に思います。

葬儀費用は誰が準備する

お葬式の費用って誰が準備すべきものだとお考えですか？「死んだ後のことは家族に任せる」、「家族に迷惑を掛けたくないので自分で準備する」…、ご意見様々でしょう。

以前は、自分が死んだ後のことは、家族が考えることと、残ったお金を占めるとうさがれる者に頼ると、意見が多い。



最近は自分で葬儀の費用を準備する方が増えてきました。

掛け金が少なく、負担のない様にと考えた方が増えてきました。

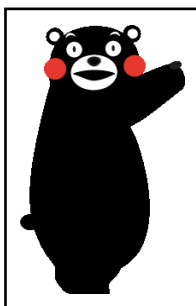
影響で子供の兄弟などの多くは簡素化という傾向も見られました。

百万円といえば、葬儀社に希望するのは何をさえ望みますか。

多くの皆様に読んでいただき、一度考えてみましょうか。

資料の請求、お問合せは…
くまもと県民葬祭
フリーコール 0077-78-1059
２４時間いつでも受付

けんみん葬祭だより



連載シリーズ

お葬式で後悔しないために（第１回）

～あわただしい葬儀社との打ち合わせ～

悲しむ暇もなく亡くなった誰かが病院から葬儀社に連絡をすると、二～三日中に葬儀社の方が来られます。葬儀の最期の時、慌てないためにも、葬儀の内容や費用、お寺様のお布施などを決めておくことは、後悔しないお別れをするために大切なことです。

4月14日、お葬式相談会開催

お葬式講座、人形供養祭も同時開催

四月十四日（土曜日）の春の彼岸の当日は、お葬式相談会を開催します。当社主催の供養祭を開催、人形供養祭は初めての企画であります。当日は、写真の通り、お人形さんが載りきれない程の盛況でした。

後の二回、当日は午後の講演会を行いました。参加者の皆様、ご感謝申し上げます。

くまもと県民葬祭
つどう 語らう 心がかよう お葬式
ファミリースペース 東京塚
生きるよろこび 悠々倶楽部 by Kenmin sousai

春夏秋冬

終末期医療の厳しい現実

人生の最期を迎えるに当たって、尊厳ある死を望む人は多いのではないでしょうか。しかし、医療の進歩は、人を死から遠ざけ、延命を可能にしました。その結果、本人の意思とは関係なく、過剰な医療が施されることが多くなりました。

人間の命は、誰のものでしょうか。本人の意思を尊重すべきだと考えます。しかし、現実には、本人の意思が無視されることが多いのです。

延命治療を望まない人が、本人の意思を尊重してもらえるよう、法的な整備が必要だと思います。

安楽死・尊厳死

安楽死とは、医師が患者の苦痛を取り除くために、意図的に死を早めることです。日本では、安楽死は殺人罪に問われます。

尊厳死とは、延命治療を中止して、自然に死を迎えることです。日本では、尊厳死は法的に認められていません。

終末期医療の課題

終末期医療の課題は、本人の意思の尊重、医療費の問題、医師の負担などです。

本人の意思を尊重するためには、リビングウィルの作成が重要です。リビングウィルとは、自分が意思表示できなくなった場合に、どのような医療を受けたいかを文書で残しておくものです。

医療費の問題は、高額な医療費が家族の負担になることです。医師の負担は、過剰な医療を強いられることです。

終末期医療の未来

終末期医療の未来は、本人の意思を尊重する方向に進むでしょう。リビングウィルの作成が普及し、医療費の問題や医師の負担が軽減されることを期待します。

“悔いのないお別れ”のために、今、できることがあります

最近は、自分の葬儀の内容や費用について、事前に考え、
準備をする「生前予約」をする方が増えてきています。
その多くは、残される家族に「負担をかけたくない」
「心配させたくない」という想いから。
家族を想う気持ちは、こころ豊かな
お別れの時間となってかたちになります。
大切な家族との最期のお別れは、
悔いを残さずおだやかに過ごしたい。
家族への感謝の気持ちをこめて、今、できること。
～「生前予約」で、後悔しないお別れを～
今すぐお問い合わせ下さい。

生前予約
納得できる内容と費用になるよう、事前に相談しながら決めていきます。自分に合った、自分らしいお葬式が可能になり、残されるご家族の負担を減らし、ゆっくりとお別れができます。

動画公開中 インターネットお葬式講座
当社ウェブサイトの「実感・体感コーナー」では、お葬式講座など講演内容を簡単に視聴することができます
くまもと県民葬祭 検索
www.0077-78-1059.com

詳しくは、ホームページ又は下記までお電話を。
くまもと県民葬祭
〒862-0923 熊本市東区東京塚町19-47 TEL096-386-1059 FAX096-288-9948
24時間365日いつでも受付中！（土日も可）
通話料無料 0077-78-1059
つどう、語らう、心がかよう お葬式
ファミリースペース東京塚 FAMILY SPACE HIGASHI KYOZUKA